今年のナシ剪定のポイント

佐賀県果樹試験場　落葉果樹研究担当　加藤恵

昨年から今年にかけて冬季はかなり冷え込み、春先からは暖かい日が続きました。ナシは全般的に開花の揃いが良く、短果枝と腋花芽、長果枝の先端部と基部側など、例年複数回受粉が必要な樹でも一度で実施できるほどでした。近年問題となっている発芽不良の発生もかなり少なかったのではないでしょうか。

現時点（９月末）ではこれから暖冬傾向で進むようで、今年の状況とは反対に開花のバラつきや花数の不足が起こる可能性があります。今年の剪定ではこの点に十分配慮しながら花芽を配るようにしてください。

今年の剪定の考え方

今年は全般的に着果数が多く、また、夏場の高温・乾燥の影響で収穫後の樹は「なり疲れ」の状態であったと思います。そのため、十分なかん水や土壌改良が実施できていない園地では、秋根の発生と健全な葉の維持が上手くいかず、それに伴う貯蔵養分の蓄積が不十分であると予想されます。この場合、来年初期の生育には前年の着果負担の影響は出にくいと思われますが、新根の生育は確実に抑制され、樹は弱まっていきます。そこで、本年の状況を踏まえた剪定の考え方を述べていきます。

▼予備枝の育成

樹勢回復のために必要なのは着果していない「遊び枝」です。予備枝の配置は葉数増加につながります。主枝先端部を中心に予備枝は多めに配置してください（図１）。

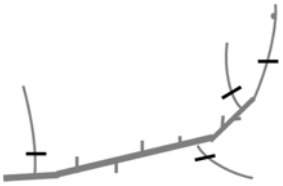


図１　主枝先端部に予備枝を配置

▼側枝の扱い

開花期には発芽不良が起こることが予想されますので、長大な結果枝の利用は避けて、中庸な結果枝の利用と予備枝由来の側枝づくりを心掛けてください。長果枝よりも短果枝の比率を高めることで発芽不良の発生頻度を抑えることができますが、短果枝主体の古い側枝ばかりでは樹勢低下につながります。品種ごとに側枝の更新サイクルを守ってください。花芽数を多く確保して発芽不良に備える場合には、開花前に確実に摘蕾を行ってください。

翌年更新が確定している側枝に対しては、側枝基部に鋸で切り込み（くさび）を入れて

おくことで側枝基部からの新梢の発生を促し、予備枝として利用することができます（写真１）。

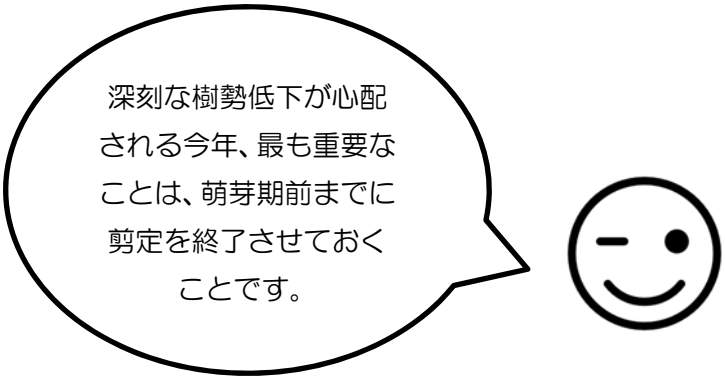
写真１　側枝基部へのくさび処理後の新梢発生

▼主枝、亜主枝先端の強化

主枝、亜主枝先端部は樹のバランスを整えるため重要な部位です。強く切り返し、できるだけ棚面より高く配置してください。極端に樹勢の低下した樹では２～３年枝を切り戻して強い一年枝を利用してください。

ジョイント栽培における剪定の考え方

基本の考え方は慣行栽培と同じですが、よりシンプルに徹底した枝管理を行います。まず剪除の対象となるのは、４年生枝、主枝基部の３年生枝と徒長枝、直上枝（短果枝も）、主幹部から発生した枝です。次に、結果枝を養成するために、中果枝は強く切り返して予備枝にし、花芽のない長果枝は棚付けして短果枝を養成するか、切り返して予備枝にします。そして、結果枝として利用するのは摘心で優良な短果枝を養成した２年生枝、予備枝から育成した長果枝、腋花芽のある生育良好な長果枝、短果枝が維持された３年生枝だけです。

側枝の更新が重要な栽培方法です。枝を剪除するときにはシワを残して潜芽を確保し、主枝上の短果枝は摘蕾して新梢発生を促しましょう。

（参考：神奈川県農業技術センター　ニホンナシの樹体ジョイント仕立て栽培管理マニュアル）